

いわき産米づくり情報 第4号

(出穂予想、高温対策、病虫害対策、追肥)

1 生育状況 (7月14日調査)

地域(標高)	平字鎌田(10m)					浜地域研究所 相馬市(10m)					三和町下三坂(450m)				
品種・田植え(昨年)	コシヒカリ・5月20日(5月18日)					コシヒカリ・5月10日					ひとめぼれ・5月18日(5月15日)				
栽植密度(昨年)	17.8 株/m ² (18.4株/m ²)					20.8 株/m ² (—)					18.6 株/m ² (18.7株/m ²)				
調査項目	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)	幼穂形成期	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)	幼穂形成期	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)	幼穂形成期
本年値	65.2	34	603	34.0	7月17日	79.8	37	778	32	7月16日	59.5	28	515	42	7月11日
昨年値	68.0	29	539	29.5	7月18日	82.6	35	722	33.2	7月16日	59.0	29	546	36	7月11日
平年値(5ヶ年)	63.8	30	543	32.4	7月22日	78.4	30	633	33.1	7月19日	55.5	28	504	36	7月13日
平年比(%)	102	112	111	105	-5日	102	123	123	98	-3日	107	99	102	117	-2日

地域(標高)	四倉町玉山(10m)					浜地域研究所(10m)					川前町上桶売(500m)				
品種・田植え	天のつぶ・5月9日					天のつぶ・5月10日					里山のつぶ・5月18日				
栽植密度(株間)	15.0 株/m ² (22.2cm)					20.8 株/m ² (—)					18.9 株/m ² (—)				
調査項目	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)	幼穂形成期	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)	幼穂形成期	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)	幼穂形成期
本年値	68.7	21	410	40.3	7月14日	73.1	35	730	40.5	7月10日	60.8	26	487	41.2	7月12日

地域(標高)	小川町塩田(50m)					遠野町上根本(200m)					錦町台前(1m)				
品種・田植え	ふくひびき(平坦部)・5月10日					ふくひびき(中山間部)・5月20日					ふくひびき(遅植え)・6月12日				
栽植密度(株間)	12.8 株/m ² (26cm)					19.0 株/m ² (18cm)					16.7 株/m ² (20cm)				
調査項目	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)	幼穂形成期	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)	幼穂形成期	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)	幼穂形成期
本年値	77.7	28	353	39.9	7月6日	70.8	19	359	44.1	7月11日	37.8	17	291	37.7	—

《生育概況》

- 幼穂形成期(幼穂長2mm)が平年より早まっている。
 →(平坦部の出穂予想)ふくひびき:7月26日、天のつぶ:8月4日、コシヒカリ:8月6日
 →(山間部の出穂予想)ふくひびき:7月31日、ひとめぼれ:8月1日、里山のつぶ8月2日
- 葉数が平年より「1枚少ない」まま展開している。
 →登熟に影響することが想定される。適切な追肥を実施。

2 今後一ヶ月の天気予報(仙台管区気象台 7月13日発表1ヶ月予報)

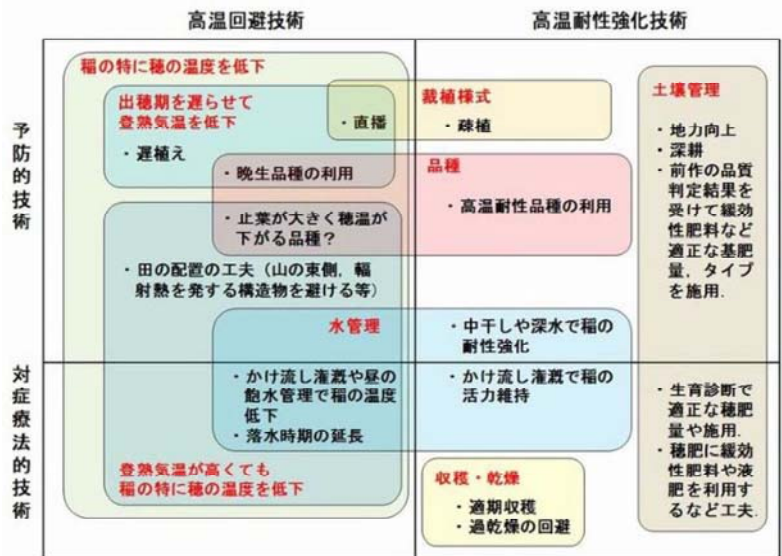
- 【気温】:期間の前半は高温に注意
- 【降水量】:期間の前半は「曇りや雨」が多く、後半は「晴れ」の周期が多い。
- 【日照時間】:平年並みに経過

かなりの高温が予想される

3 今後予想される障害について

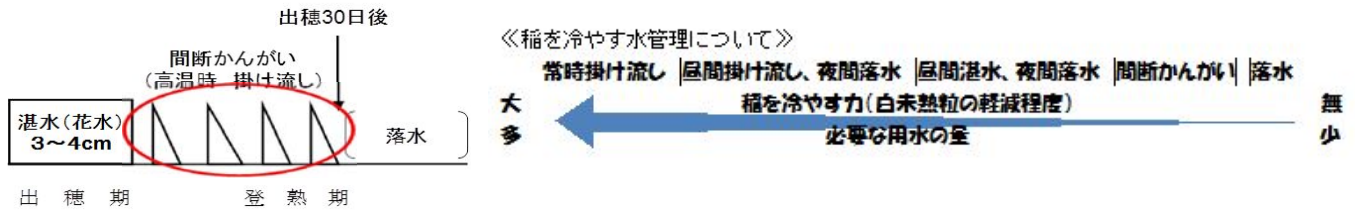
- 出穂前の高温
 →間断灌漑の時期です。
 用水不足で土壌が白乾してしまい、不稔を引き起こしてしまう。
- 出穂前後の高温
 →高温で稲体を維持することに肥料を使用して葉色が色あせることも。
 登熟に必要な養分が無くなる。
- 出穂後の高温
 →登熟不足で白未熟粒の発生につながる。

適切な水管理を実施しましょう!!
 ~特に出穂後の用水管理を~



農家の皆さん!「GAP」についてご存じですか?
 「GAP」について話を聞いてみたい人、取組みたい人は是非農林事務所へお問い合わせ下さい。

4 高温障害対策



- ・ 用水の都合を考えると、最も現実的な対策は、「昼間湛水、夜間落水」です。
- ・ 毎日水を入れ替えるのが難しい場合は、できるだけ頻繁に水を入れ替えましょう。
- ・ 入水は朝に行いましょう。一日の中で最も水が冷たい時間帯です。できるだけ深く湛水しましょう。

5 いもち病対策

～農家の皆さん！ご注意ください！！～

- ・ 今年はいもち病は山間部だけでなく平坦部でも発生が確認されています。
- ・ 自分のほ場は大丈夫ですか？「籾いもち」対策は万全ですか？

《葉いもち防除》

- ・ 止葉や上位葉の葉いもちが穂いもちにつながるため、発病を確認した場合は、直ちに散布剤により防除を行う。

農薬名	使用量(/10a)	使用時期及び方法	使用回数
ブラシン粉剤 DL	3～4 kg	収穫7日前まで。散布。	2回以内

《穂いもち防除》

- ・ 穂いもち対象の粒剤は稲に吸収させるため、出穂15～10日前に散布する。

農薬名	使用量(/10a)	使用時期及び方法	使用回数
コラトップ粒剤 5	3～4 kg	出穂 30～5日前まで (7/4～31頃)。散布	2回以内

※3～5cmの湛水状態で均一に散布し、散布後7日間は止水する。



写真：川前地区（7月14日撮影）

箱処理剤：デジタルコラトップアクトを田植同時

6 カメムシ防除 「斑点米や未熟粒の発生防止」

- ・ 出穂10日前には草刈りを終了し、出穂後の刈取りは行なわない。
- ・ ほ場内のヒエの穂はカメムシの餌となり、侵入を助長するので抜き取る。
- ・ 傾穂期（出穂7～10日後）に防除を行い、その後も発生が見られる場合は、1週間後に追加防除する。特に天のつぶは2回防除を励行する。なお、薬剤防除する場合は畦畔雑草を含めて行う。

7 穂肥 「生育を確認し、倒伏させないよう適切に行う」

- ・ 基肥一発肥料を施用している場合、穂肥は基本的に必要ない。ただし、幼穂形成期に葉色が極端に低下する時は、穂肥を施用する。
- ・ コシヒカリは減数分裂期となる出穂15日前頃（7月20～26日）に実施する。
- ・ 穂肥は標準で窒素成分2kg/10aであるが、生育目標を参考に草丈が85cm以上、または、葉色が濃く倒伏が心配される場合は穂肥の量を半分程度に減らす。

品種	時期	幼穂の長さ	草丈	葉色
コシヒカリ	出穂前15日 (7/21頃)	2cm	85cm以下	3.0～3.5以下

例) NK化成2号(16-0-16) 6kg/10a (チッソ 1kg/10a)

農家の皆さん！「GAP」についてご存じですか？
「GAP」について話を聞いてみたい人、取組みたい人は是非農林事務所へお問い合わせ下さい。